

高校陸上競技部における顧問とキャプテンのリーダーシップの研究

A Study on Leadership of Advisor and Captain of Athletics Club in High School

コース 社会学

学生氏名 福永 瑞貴

指導教員 串田 秀也

キーワード：リーダーシップ PM 理論 高校陸上競技部
" (Leadership) (PM Theory) (Athletics Club in High School)

本論文の目的は、高校陸上競技部の顧問とキャプテンのリーダーシップが部員の競技成績と部の雰囲気形成に与える影響について調べることを通じて、望ましいリーダーシップのあり方を考察することである。

これまでのスポーツ集団におけるリーダーシップに関する先行研究では、主として団体競技が扱われてきた。しかし、陸上競技部には、個人競技であり、専門種目の違いに応じてパートに分かれて練習するという2つの特徴があり、陸上競技に関する研究が少ないのが現状である。本論文では、高校陸上競技部におけるリーダーシップについてPM理論を用いて研究を行った。PM理論とは、多義的で単次元での分類しかできなかった伝統的リーダーシップ類型とは違い、リーダーシップを2つの集団機能を果たす行動として捉える、従来よりも測定操作次元が明確であり、多次元解析が可能なものである。

本論文では、研究方法として調査票調査を用いた。調査対象は高校のときに陸上競技部に所属していた大学1回生で、その大半が大学でも陸上競技部に所属している人である。調査票を作成するにあたって、本研究で中心となる仮説を立てた。それは、「顧問のリーダーシップ行動は、部員の競技成績に影響を与える」「キャプテンのリーダーシップ行動は、部員の競技成績に影響を与える」「部の雰囲気は、部員の競技成績に影響を与える」「キャプテンのリーダーシップ行動は、部の雰囲気に影響を与える」「顧問のリーダーシップ行動は、部の雰囲気に影響を与える」「顧問のリーダーシップ行動は、キャプテンのリーダーシップ行動に影響を与える」というものである。

調査の結果、部員の競技成績に最も影響を与えているのは、部の雰囲気であった。仮説において、最も影響を与えていると考えていた顧問のP型リーダーシップ行動には、相関がみられず、仮説は成り立たなかった。部の雰囲気に最も影響を与えているのは、キャプテンのM型リーダーシップ行動であった。これは、仮説通りの結果であった。また、キャプテンのPM型は顧問のPM型と同じ傾向を示すことがわかった。これは、仮説と反対の結果である。

これらの結果から、部員の競技力を向上させるために、顧問はM型リーダーシップ行動を積極的に行う必要があると言える。M型リーダーシップ行動とは具体的に、リーダーとしてふさわしい行動や態度をとることや、部員と積極的にコミュニケーションを図ることである。また、部員の中で、キャプテンとしてふさわしい行動をとり、他の部員と積極的にコミュニケーションの取れる人をキャプテンに選ぶことで、部の雰囲気がよくなり、部員の競技力向上につながると考えられる。